



沖縄県退職教職員会
 会長 仲村勝彦
 〒900-0015
 那覇市久茂地3-9-23
 教育会館内
 ☎ (098) 867-0161 (代)
 FAX 098-863-2026



議長団の又吉さん(左)と
 具志川さん(右)

2017年度より18年度の
 役員を紹介します。

会長	仲村勝彦(再)
副会長	宮城玲子(再)
副会長	當間嗣朝(再)
事務局長	平安常清(再)
事務局次長	神里竜司(新)

8 回会
 4 期 総
 第 定

全支部から70人が 懇親会も盛り上がる

本会の第48回定期総会が
 7月12日に沖教組会館3階
 ホールで開催され、宮古・八
 重山を含む全支部から70人
 が参加し、予算・決算、新年
 度方針、役員選出、宣言・決
 議等が全会一致で可決されま
 した。

幹事 佐渡山安信(再)
 幹事 豊村良好(新)
 会計 比嘉美津枝(再)
 総会終了後の懇親会は、各
 支部からの趣向を凝らした余
 興があり、大いに盛り上がり
 親睦を深めあうことができま
 した。



全員で団結ガンパロー!



懇親会もにぎやかに

総会開催にあたって、沖教
 組の役員・書記局の皆さんに
 は会場準備から最後の後片付
 けまで大変お世話になりました。
 沖教組、沖共済、学校生
 協からは飲み物の提供があり
 ました。
 総会で可決された「辺野古
 の新基地建設断念・普天間飛
 行場の即時閉鎖、返還・高江
 へリパッド建設断念を求める
 要請決議」は早速、総理大臣
 をはじめ関係大臣に送付しま
 した。

名護市長選挙は2月

稲嶺進現市長の必勝を

県内外が注目している名護市長選挙が来年の2月に実施されることが決まりました。この選挙では現職の稲嶺進氏が3選を目指し立候補を決意しています。稲嶺氏は「海にも陸にも新しい基地は造らせない」との政策を掲げ、市民からの力強い支持に支えられて1期目・2期目とも自民党候補を撃破してきました。この間、稲嶺氏は全くぶれることなく辺野古新基地建設に一貫して反対し、翁長知事誕生後は両輪となり県民の先頭に立って闘いをリードしてきました。辺野古の陸上・海上では機動隊や海上保安庁による暴力的な弾圧にあいながらも3年以上にわたり、必死の粘

り強い闘いをしていきます。

今回の市長選挙では自民党からも立候補予定者がおり絶対にはいきません。稲嶺氏が圧倒的な勝利で三選を果たせば新基地建設を止める可能性は出てきますが、推進派の自民党候補の勝利となれば、日米両政府は一気呵成に工事強行をしてくるでし



新基地建設NOで県民の先頭に立つ
稲嶺市長(左)

よう。そうなれば闘いは非常に厳しくなります。

私達沖退教は前回の選挙で「必勝名護市長選挙を」を最大の運動方針に掲げ、全支部体制を取り、国頭支部からの指示のもと連日選挙事務所を足運び、行動を展開してきました。今回の市長選挙は「稲嶺進氏の三選」が至上課題です。7月12日の定期総会で「名護市長選挙は組織をあげて全力で取り組む」ことを決定しました。新基地建設阻止を目指し、名護市長選挙を勝利しましょう。

猛暑の中

座り込み続く

猛暑の中で、シユワブゲート前での座り込みは続けられています。何度も何度も機動隊による暴力的な強制排除にあいながらなお座り続けてい

ます。

辺野古の美しい海を埋め立て、耐用年数が200年とも言われる巨大新軍事基地を子や孫の世代に残してはならないとの強い思いが県民を奮い立たせています。座り込み開始から3年が過ぎました。防衛局による海上作業も進められています。沖退教も各支部から座り込みに参加していません。これまでの闘いが無にならぬよう、勝利の日まで頑張ります。



強制排除されてもお座り込む

8・12
県民大会

4万5千人が参加

我々はあきらめない 炎天下決意の表明

「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」が、さる8月12日午後2時から奥武山公園陸上競技場で開催され、4万5千人が参加しました。

当日は最高気温が35度の猛暑日となり、大会参加者が少なくなるのではないかと心配されましたが、「辺野古新基地NO!」の県民の思いは固く、県内各地からチャーターバスを出すなどして大結集となりました。



承認撤回を改めて表明した翁長知事

会場には高齢者から若者、家族連れと幅広い層からの参加があり、「NO 辺野古新基地」「我々は諦めない」のボードを掲げてメッセージを発信していました。本会も多くの会員がそれぞれの地域の島ぐるみ会議の皆さんと行動を共にしました。



「我々はあきらめない」
「NO 辺野古新基地」のボードを掲げる

翁長知事 撤回を再表明

壇上では多くの弁士が決意を述べましたが、翁長知事は「あらゆる情報を判断し、撤回の時期について私の責任で決断する」と公有水面埋め立て承認の撤回に改めて決意を示し、「今後も県民に対するいかなる差別的、犠牲的な扱い、基地負担の押し付けに反対し、オスプレイの配備撤回、辺野古新基地建設反対、普天間飛行場の閉鎖・撤去の実現に取り組んでいく不退転の決意を皆さんに約束する」と力強く語りました。

大会では「地方自治と民主主義、人権を守るため、この不条理にあらがい続ける」と掲げた宣言のほか、オーストラリアでのオスプレイ墜落事故を受けて配備撤回・飛行禁止を求める特別決議も採択されました。

九州北部豪雨

被災者支援

任意カンパ願い

去る7月11日～14日にかけて、熊本県の熊本地方と阿蘇地方、大分県西部で猛烈な雨が続き、13日には佐賀県と福岡県を中心に、14日には福岡県と大分県を中心に大雨となり、大規模な災害が発生しました。死者は計36人、行方不明5人と発表されています。

家屋全壊は熊本県、福岡県、大分県であわせて363件。半壊は1,500棟。日退教事務局が各単会に問い合わせたところでは、福岡県退教会員の方が1名犠牲となり、7会員世帯10人の方々が被災されたとのことです。

沖退教・高退教に対し、九州各県をはじめ全国の仲間達

からこの8年間「沖縄連帯カンパ」をいただいています。九州ブロックの合言葉は「九州はひとつ」です。この度被災にあわれた皆さんにお悔やみとお見舞いを申し上げます。

任意カンパの要領

- 1 目的：九州北部豪雨被災者の支援
- 2 カンパ額：任意
- 3 取り組み期間： 9月末日まで
- 4 カンパの集約： 支部毎に集約
集約方法は各支部に一任
- 5 本部への集約： 10月11日（水）の
第三回理事会の場で

ともに、日頃のお礼の気持ちを込めて、左記のように『九州北部豪雨』被災者支援カンパ』を取り組みたいと思しますのでよろしくお願い致します。

オスプレイ また墜落

米 自粛要請を無視

米軍普天間飛行場所属のMV22オスプレイが8月5日の午後、オーストラリア東部の海上に墜落し乗員26人中23人は救出されましたが、3人が死亡しました。昨年12月に名護市安部の海岸に墜落してから1年もたたないうちにまたも墜落しました。

オスプレイは開発段階から欠陥機と指摘され、至る所で事故を起こし死亡者も多数出しています。日本政府は米軍に対し飛行自粛を申し入れたというが、完全に無視され7日には飛行を再開しています。対等であるべきはずの国対国の関係が、日本政府からの訴えが一蹴されるまさに、一方的、属国的関係を世界にさらけ出しました。オスプレイは毎日のように県民の頭上を縦横無尽に飛び交っています。配備撤回を訴え続けましょう。



名護市安部に墜落したオスプレイ